

大槌町出身の元持さん

故郷支援 AMDA に

東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県大槌町で活動を続ける、国際医療NGO「AMDA（アムダ）」の嘱託職員で調整員の元持幸子さん（36）＝写真＝が、岡山市北区のアムダ本部で記者会見をした。

北区で会見 震災機に嘱託職員



元持さんは高校卒業まで大槌町で生活し、現在は仙台市にある理学療法士養成の専門学校で講師を務める。3月11日、勤務先で被災。「故郷のため、少しでも力になりたい」と知人の

アムダ職員に申し出て嘱託職員となり、同19日から4月20日まで避難所への支援物資配達やボランティアの割り振りなどの調整をしてきた。

元持さんはスライドを使い、被災直後と今月に入ってから町の様子を比較しながら、現状を説明。がれきの撤去が進み、電気やガス、水道などのライフラインが広範囲で回復してきていることなどを紹介し、「避難所にいた被災者は」少しずつ自分のスペースと

時間を確保できてきており、生活のリズムを作っている」と話した。一方、

町内では1000戸以上の仮設住宅が必要とされているながら、建設されているのは160戸に過ぎず、避難所生活が長期化するおそれも挙げた。

元持さんは仙台市内で勤務しながら、週末には大槌町での支援活動を続けるといい、「顔見知りの人

も多く、被災者に安心感を与えられていると感じた。土地鑑などを生かした活動をしたい」と話していた。